

	<p>発行所</p> <p>岡山県神社庁 教化委員会 広報部会</p> <p>〒703-8272 岡山市中区奥市3-22 TEL 086-270-2122 FAX 086-270-2123 http://www.okayama-jincho.or.jp/</p>	<p>祝祭日には国旗 を掲げましょう</p>
--	--	----------------------------



諏訪神社
ビヤクシン

諏訪神社（勝田郡勝央町）の境内にある御神木ビヤクシン（柏楨）は、樹高16メートル、目通りの周囲は5.5メートル、樹齢800年以上経っていると想定されている。

同木は昭和45年6月15日、勝央町天然記念物に指定され、また現在、東美作路銘木百選にも選定されている。

ビヤクシンは、ヒノキ科の常緑高木でイブキ（伊吹）の変種である。昔から庭木として多く賞用され、特に神社に多く広く栽植されている樹木である。

臨時協議員会

神社庁長に牧氏 副庁長に藤山、佐々木両氏を選任



佐々木 講治
岡山県神社庁副庁長
玉井宮東照宮宮司



藤山 知之進
岡山県神社庁副庁長
新庄八幡宮宮司



牧 博嗣
岡山県神社庁庁長
八幡神社宮司

就任挨拶

今出来る最善の方策を考え光明を見出す

岡山県神社庁庁長 牧博嗣

3月11日に臨時協議員会が開催され、任期満了に伴う神社庁役員改選の席上で新神社庁長にご選任いただき、4月1日に就任致しました。以来4カ月近くが経過しましたが、改めてその責任の重大さを実感する日々を過ごしております。

さて現在の神社界では、少子高齢化や過疎化による氏子の減少、神職の後継者問題など先行きは不透明と言わざるを得ません。またこれらに対する打開策も、なかなか見いだせないのが現状だと思えます。

しかし私は、今出来る最善の方策を考え行動すれば、何らかの光明を見出すことが出来るのではないかと考えております。その為にも、神職一人一人が資質の向上を図り、氏子崇敬者或いは地域社会の中で信頼され頼られる存在であることが、まずは大切なことだと思えます。

その上で、神社や神職をより身近に感じて頂けるような取り組みと、地域に即した神職の研鑽の場を支部単位で整えていただきますようお願いいたします。

と思います。神社庁としても現実に即した研修、あるいは事業を実施していければと考えております。幸い、近年では当社庁の各委員会活動も活発な活動がなされておりますので、相乗効果を期待して止みません。

在任中は「やる気・元気で気張りたい」と思っておりますので、ご支援とご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

臨時協議員会
役員改選
庁長・副庁長・理事等を選任

3月11日、神社庁講堂において臨時協議員会が開催され、新役員が決定した。

開催日が東日本大震災からちょうど五年目にあたるため、神殿拝礼に続く開会行事の冒頭で、犠牲者に対し全員で黙祷が捧げられた。

次に河本庁長が挨拶を行い、日頃の

理解と協力に謝意を示した後、神社庁長辞任の意向を既に議長に提出している旨を改めて表明した。

続いて来賓として神道政治連盟岡山県本部長の三原千幸氏が挨拶を行い、同連盟の活動を紹介すると共に、来る7月の参議院選挙で同連盟が推薦をしている山谷えり子氏、小野田きみ氏への更なる後援を依頼した。

議長・副議長が登壇し、神社庁書記により議員定数37名のうち出席協議員数が32名であることが告げられ、本会議の成立が宣言された。

次に当局から新役員を選出する上での規則等の説明が行われた。その方法とは、まず各地区からそれぞれ選考委員2名を選出して選考委員会を構成し、各地区から提出された新役員案を持ち寄り審議を行うものである。各地区から選出された選考委員は左記の通り。

- 〔備前〕河野 薫 岡崎義弘
 - 〔備中〕福田真人 柴床博人
 - 〔美作〕林 浩平 黒田公宣
- 厳正な審議の結果、左記の新役員が選考され、協議員会で承認された。

庁長 牧 博嗣(新任) (敬称略)

副庁長 藤山 知之進(留任)

〃 佐々木 講治(新任)

理事 戸部 廣徳(留任)

- 〃 岡部 典雄(留任)
- 〃 伏見 正(留任)
- 〃 日野 正彦(留任)
- 〃 太田 浩司(留任)
- 〃 林 浩平(新任)

4月1日からの神社庁役員等の職務分掌は次の通りに決定された。

牧庁長

神道政治連盟岡山県本部本部長・岡山県宗教者の会副会長・日本会議岡山常任相談役

藤山副庁長

神道政治連盟岡山県本部副本部長・岡山県宗教者の会常任理事・同和問題に取り組む岡山県宗教者団体連絡会議議長・英霊にこたえる会運営委員

佐々木副庁長

神道政治連盟岡山県本部副本部長・岡山県宗教者の会理事・日本会議岡山副議長・岡山県戦没者顕彰会常任理事

戸部理事 祭祀委員会委員長

岡部理事 渉外担当

神道政治連盟岡山県本部幹事長・岡山県宗教者の会監査役

伏見理事 総務委員会委員長

日野理事 財務委員会委員長

太田理事 教化委員会委員長

林理事 研修企画室室長

瀧本参事

同和問題に取り組む岡山県宗教団体連絡会議広報部会副部会長

(広報部会 渡辺真理子)



6月28日、神社庁講堂において定例協議員会が開催された。

開会行事の後、牧神社庁長が挨拶を行い、熊本地震被災神社義捐金活動への協力に対する謝意を述べた上で、以下の内容を語った。

- ◎ 今後は神社庁長が神道政治連盟岡山県本部長も兼ねる。七月に行われる参議院選挙比例区山谷えり子氏、地方区小野田きみ氏への更なる支援と協力を。
- ◎ 県関係者大会用の経費積立を行う。何年か毎に著名講師を招聘するなど、より有意義な行事にするため。
- ◎ 夏には直階検定講習会を開催。受講希望者は現在六名。
- ◎ 本年度は主要教化事業として、神社庁HP全面リニューアルを予定。
- ◎ 神社庁物品販売事業を研修用書籍販売に留めたい。現行販売は来年三月末日まで行う。

◎ 神社庁職員の清水美代子氏が来年六月で退職するため、有・神職資格者で男女いずれかの職員を新規採用予定。次に議長が登壇し、書記により協議員

(広報部会 渡辺真理子)

会定数は37名で本日の出席数は30名との宣言の後、藤山副庁長から5月26日(28日)に行われた神社本庁定例協議員会の報告が為された。主な内容は左記の通りである。

- ◎ 神宮大麻・暦の頒布について全国でも県内でも厳しい状況である。
- ◎ 承認事務の遵守を。
- ◎ 本庁でも公式ウェブサイト・神職専用ウェブサイトの充実を図っている。
- ◎ インターネット等で神符や守札を取り扱わないように。
- ◎ 過疎地域神社の抱える諸問題対策を行政と相談しながら進めていく。
- ◎ 戦後70年が経過し、神職の意識も変化した。今一度、神職としての自覚を深めるように。
- ◎ 懲戒規定が全面改定。対象者の明確化が為された。
- ◎ 直階宮司代務者の解消と整理をする予定。

続いて各委員会から業務報告が為された後、議案第1号「平成28年度岡山県神社庁一般会計歳入歳出予算案」が上程された。

当局により説明が行われたが、夏に行われる直階検定講習会費用の内訳に関する質疑応答があったのみで、原案通り可決された。

平成 28 年度 岡山県神社庁

一般会計歳入歳出予算書

(平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日)

歳入総額 134,665,338 円

歳出総額 134,665,338 円

【歳入の部】

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)
I 神饌及び幣帛料	870,000	870,000	0
1 本庁幣	620,000	620,000	0
2 神饌及初穂料	250,000	250,000	0
II 財産取入	10,000	10,000	0
III 負担金	36,920,000	36,920,000	0
1 神社負担金	25,844,000	25,844,000	0
2 神職負担金	9,230,000	9,230,000	0
3 支部負担金	1,846,000	1,846,000	0
IV 交付金	65,300,000	65,300,000	0
1 本庁交付金	900,000	900,000	0
2 神宮神徳宣揚交付金	64,000,000	64,000,000	0
3 本庁補助金	400,000	400,000	0
V 寄付金	3,000,000	3,000,000	0
VI 諸収入	6,905,000	5,535,000	2,050,000
		(8,425,061)	(△ 1,512,061)
1 表彰金	50,000	50,000	0
2 預金利子	5,000	5,000	0
3 申請料・任命料	2,000,000	2,000,000	0
4 会費	4,550,000	3,180,000	1,370,000
		(6,070,061)	(△ 1,520,061)
5 雑収入	300,000	300,000	0
VII 繰入金	1,200,000	1,200,000	0
当期歳入合計	114,205,000	112,835,000	1,370,000
		(115,725,061)	(△ 1,520,061)
前期繰越金	20,460,338	19,000,000	1,460,338
		(21,898,757)	(△ 1,438,419)
歳入合計	134,665,338	131,835,000	2,830,338
		(137,623,818)	(△ 2,958,480)

【歳出の部】

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)
I 幣帛料	2,300,000	2,300,000	0
1 本庁幣	2,200,000	2,200,000	0
2 神社庁幣	100,000	100,000	0
II 神事費	400,000	400,000	0
III 事務局費	31,030,000	31,210,000	△ 180,000
		(31,570,000)	(△ 540,000)
1 表彰並びに儀礼費	1,300,000	1,600,000	△ 300,000
(1)各種表彰費	500,000	600,000	△ 100,000
(2)慶弔費	800,000	1,000,000	△ 200,000
2 会議費	200,000	200,000	0
3 役員関係費	1,400,000	1,400,000	0
(1)役員報酬	1,280,000	1,280,000	0
(2)地区会議関係費	120,000	120,000	0
4 給料及び福利厚生費	16,730,000	16,100,000	630,000
		(16,160,000)	(570,000)
(1)給料	8,930,000	8,300,000	630,000
		(8,360,000)	(570,000)
(2)諸手当	5,000,000	5,000,000	0
(3)各種保険	2,700,000	2,700,000	0
(4)職員厚生費	100,000	100,000	0
5 庁費	5,850,000	6,360,000	△ 510,000
		(6,660,000)	(△ 810,000)
(1)備品費	500,000	300,000	200,000
		(500,000)	(0)
(2)図書印刷費	850,000	750,000	100,000
(3)消耗品費	1,400,000	1,300,000	100,000
		(1,400,000)	(0)
(4)水道光熱費	1,200,000	1,200,000	0
(5)通信運搬費	900,000	900,000	0
(6)雑費	1,000,000	1,910,000	△ 910,000
6 交際費	1,100,000	1,100,000	0
7 旅費	3,300,000	3,300,000	0
8 維持管理費	950,000	950,000	0
9 法務対策費	200,000	200,000	0

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)
IV 指導奨励費	15,539,000	13,749,000	1,790,000
		(16,639,061)	(△ 1,100,061)
1 教化事業費	7,223,000	8,282,000	△ 1,059,000
		(11,172,061)	(△ 3,949,061)
(1)教化費	550,000	910,000	△ 360,000
(2)広報費	2,650,000	720,000	1,930,000
(3)事業費	1,638,000	4,000,000	△ 2,362,000
		(6,890,061)	(△ 5,252,061)
(4)神宮奉賛費	1,085,000	1,385,000	△ 300,000
(5)育成費	1,300,000	1,267,000	33,000
2 神社庁研修所費	5,700,000	2,000,000	3,700,000
(1)研修費	2,000,000	2,000,000	0
(2)直階講習費	3,700,000	0	3,700,000
3 祭祀研究費	925,000	1,226,000	△ 301,000
4 各種補助金	1,691,000	2,241,000	△ 550,000
(1)神宮連関係費	135,000	135,000	0
(2)神青協補助金	450,000	450,000	0
(3)氏青協補助金	90,000	90,000	0
(4)県教神協補助金	90,000	90,000	0
(5)女子神職会補助金	162,000	162,000	0
(6)県敬婦連補助金	117,000	117,000	0
(7)神楽部補助金	90,000	90,000	0
(8)作州神楽補助金	27,000	27,000	0
(9)支部長懇話会補助金	150,000	150,000	0
(10)神宮大祭派遣補助金	30,000	30,000	0
(11)教諭師関係費	350,000	350,000	0
(12)地区大会援助金	0	550,000	△ 550,000
V 各種積立金	6,490,000	5,990,000	500,000
1 職員退職給与積立金	830,000	830,000	0
2 正副庁長退任慰労金積立金	160,000	160,000	0
3 庁舎管理資金積立金	2,500,000	2,500,000	0
4 次期式年遷宮準備金	2,000,000	2,000,000	0
5 災害見舞積立金	500,000	500,000	0
6 関係者大会積立金	500,000	0	500,000
VI 神社関係者大会費	600,000	600,000	0
VII 負担金	22,926,150	23,532,450	△ 606,300
1 本庁災害慰謝負担金	303,150	303,150	0
2 本庁負担金	6,063,000	6,669,300	△ 606,300
3 本庁特別納付金	13,300,000	13,300,000	0
4 支部負担金報奨費	2,960,000	2,960,000	0
5 負担金特別対策費	300,000	300,000	0
VIII 渉外費	720,000	570,000	150,000
1 友好団体関係費	370,000	370,000	0
2 時局対策費	100,000	100,000	0
3 同和対策費	250,000	100,000	150,000
IX 神宮神徳宣揚費交付金	33,420,000	33,420,000	0
X 大麻頒布事業関係費	5,900,000	5,900,000	0
1 頒布事務費	500,000	500,000	0
2 頒布事業奨励費	5,400,000	5,400,000	0
XI 予備費	15,340,188	14,163,550	1,176,638
		(16,702,307)	(△ 1,362,119)
当期歳出合計	134,665,338	131,835,000	2,830,338
		(137,623,818)	(△ 2,958,480)
次期繰越金	0	0	0
歳出合計	134,665,338	131,835,000	2,830,338
		(137,623,818)	(△ 2,958,480)

※款内流用を認める。

※表中の () 内は補正予算額。

※増減 (△) は、予算額が前年度予算に比して減額である場合△で表示する。

平成 27 年度 岡山県神社庁規程表彰該当者

神職の部

表彰種別	支 部	奉務神社	役 職	氏 名	支 部	奉務神社	役 職	氏 名
2条1号	津山	総社	宮司	吉田 治生	真庭	八幡神社	宮司	黒田 公彦
	児島	興除神社	宮司	西辻 嘉昭	美作	旭神社	宮司	横山 征彦
	御津	吉備津彦神社	権禰宜	杉田 浩章				

責任役員・総代の部

表彰種別	支 部	奉務神社	役 職	氏 名	支 部	奉務神社	役 職	氏 名
2条2号	岡山	天津神社	役員	光藤 隆夫	井笠	神島神社	役員	松枝 寛郎
		廣幡八幡宮	総代	福田 恵温		明刃神社	役員	山賀 則夫
	津山	総社	役員	三谷 守昭		星尾神社	役員	山室 達爾
		総社	総代	西村 忍		磐裂神社	総代	安部 頼正
		三鏡神社	役員	瀬畑 深		崇道神社	総代	池田 邦洋
		千盤神社	役員	和田 博文		天神社	役員	滝本 一志
	児島	河井神社	役員	佐藤 義朋		加茂神社	役員	小山 和正
		宇野八幡宮	役員	坂田 正志		姫社神社	役員	上野 忠寛
		新庄八幡宮	総代	山本 正幸		天神社	役員	川西 岸夫
	玉島浅口	新庄八幡宮	総代	畠山 慶三		御崎神社	役員	難波 勲
		鴻八幡宮	役員	岡田 明		井神社	役員	中島 恵子
		長尾神社	役員	畑野 秀之		箸立天満宮	役員	井山 千秋
神前神社		総代	中西 誠志	廣戸神社	総代	堀江 政由		
諏訪神社		役員	真田 和道	八幡神社	役員	河本 一三		
御前神社		総代	西 優	八幡神社	役員	岡 敏生		
御津	八幡神社	総代	虫明 貞雄	瀧神社	総代	大橋 康也		
	八幡宮	役員	安原 光義	湯神社	総代	西山 昭		
	神神社	役員	大森 潤一	春日神社	総代	有友 好明		
御津	重岡神社	役員	石井 一雄	久米	熊野神社	総代	服部 寛二	
	八幡宮	役員	三ノ上 一郎					
	牛窓神社	総代	山田 護					
	美和神社	総代	大森 昭昌					
	八幡宮	役員	入江 章雅					
邑久上道 西大寺	八幡宮	役員	長瀬 伸夫					
	中山八幡宮	役員	松嶋 嵩					
2条3号	御津	正八幡宮	菅正八幡宮獅子舞保存会					
	井笠	穴尾八幡神社	岡山県神社庁神楽部井原支部 葡萄浪漫大神楽実行委員会					
3条	津山	加茂神社	総代	田村 博美	玉島浅口	安倉八幡神社	役員	川崎 忠喜
		加茂神社	役員	山本 進		真止戸山神社	役員	大西 洋平
	御津	熊野神社	役員	大智 靖之				

夏期研修予定一覧

No.	開催日	終了日	主管者	研修名	会場	受講料
1	8月3日	8月4日	高梁支部	浦安の舞研修会	上竹荘公民館	2,200
2	8月29日	8月29日	井笠支部	教養並神楽研修会	花月別館	2,000

第54回岡山県神社関係者大会開催

第1部 物故者慰霊祭
 第2部 式典 55名2団体表彰
 第3部 落語会 (三遊亭栄楽)

4月20日、岡山県神社関係者大会が、県神社庁(牧博嗣庁長)と県神社総代会(中島博会長)の共催により岡山市民会館(岡山市北区)で開催され、県内の神職・総代等、約600人が参集した。

開会に先立ち、4月に熊本県・大分県で発生した大地震の犠牲者に対し黙祷が捧げられ、第1部として午後1時30分から物故者慰霊祭が斎行された。同大会に於ける慰霊祭は五年毎に行われているが、今年が県神社庁設立70周年、また県神社総代会設立60周年の節目の年にあたるとして、この間に亡くなられた岡山県内の神社関係者全ての物故者の御霊を御慰めする祭典となっていた。

第2部は式典が行われ、開会儀礼に続いて牧庁長、中島総代会長がそれぞれ式辞を述べ、続く表彰では永年勤続者・功労者など55名と2団体に表彰状



5年ぶりに斎行された物故者慰霊祭

と記念品の授与が行われた。来賓を代表して神社本庁統理(代理・吉田茂穂常務理事)、神宮大宮司(代理・渡邊修彌宜)がそれぞれ祝辞を述べた後、被

表彰者を代表して興除神社・西辻嘉昭宮司が謝辞を述べた。

引き続き初任用神職辞令交付が行われ、平成27年3月から平成28年4月1日までの間に初めて任用された神職15名のうち、当日出席の6名に対して吉田茂穂常務理事から辞令が手渡された。

休憩時間を挟み、神道政治連盟として応援している山谷えり子参議院議員の活動を報告するDVDが上映され、併せて安倍晋三首相からの応援メッセージが紹介された。

第3部は『笑う門には福来たる・落語とお伊勢さん』と題し、皇學館大学非常勤講師であり、神職の資格を持つ三遊亭栄楽師匠による落語会が開催された。この落語会は、今回の記念大会のため特別に企画されたものであり、次々と披露される小噺に会場内は多くの笑いに包まれた。栄楽師匠は、これらの小噺が「地口落ち」と言って「同音異義語」の同じ言葉の響きで笑いを取るものであること、笑いの7〜8割は同音異義語でできていること、日本人は昔から言葉の響きを大事にしている、笑いとユーモアの塊であるのと、このような縁起の良いものを小さい頃からおじいさん・おばあさんから教わることで、言葉として残り、人生で壁にぶち当たったときに乗り越えら



神職資格を持つ三遊亭栄楽師匠による落語会

れるような先祖の祈りとして伝わっているのだと話された。春名明理事により閉会の辞を以て一連の行事が終了した。また、当日は熊本県・大分県で発生した地震に対する募金箱が置かれ、集まった募金は全額を日本赤十字社に寄付し、被災者支援に充てられることになった。同じく被災地支援として、岡山県神道青年協議会が会場入口で支援物資の受け付けを行い、ブルーシートや紙おむつ、飲料水といった多くの物資が寄せられた。

(岡山県神社庁 岡本好範)

第 26 回

高梁
稲荷神社
(高梁市落合町近似)
宮司 内田 正之

こだわりの社

高梁市落合町近似に鎮座する稲荷神社(内田正之宮司)は、寛弘元年(1004年)花山上皇がこの地を巡幸された際に山城国紀伊郡三峰の稲荷神社(伏見稲荷大社)を勧請したのが始まりとされている。

その稲荷神社社務所は現在、社殿横の境内敷地内に建設されているが、そもそもは社務所ではなく職舎であったらしい。近年、建物の老朽化に伴う改築の必要が出てきたので、かねてより必要性を感じていた社務所として立て直すことにしたという。

あり、建築業者は、崇敬企業である地元の有力業者に依頼した。

内装はヒノキを多用した和洋折衷の趣。社殿に近い勝手口には靴のまま腰かけて座れる土間スペースがあり、座面下は収納になっている。また境内作業の後に、汗が流せてすぐ白衣に改服できるようにシャワー室を設けた。玄関を挟んで社殿に近い部分を授与所兼宮司の執務室にし、その反対側には会議室にも待合室にも使用できるようにフロアリングの洋間を設けてある。

授与所部分は授与窓口の内側にヒノキ材の机を造りつけてあるが、これは立ったままで文字を書いたり紙を切ったりできるように、宮司の身長に合わせ高さを決めてある。また同スペースには参拝者から見えない位置に、事務

用品などの収納棚を設けて執務室の機能も持たせた。



玄関を挟んで反対側の洋間は南面に窓を大きく取ってあり明るい。この部屋は現在、ベビーベッドやおもちゃを常備し、普段はご自身のお子様の子守り室(内田宮司は男の子と双子の女の子の、幼い3人のお子様のお父上である。)になって

いるが、近い将来は小さなお子様を持つ親御さんたちが集まり、日頃の子育ての悩みや情報交換ができる場としても提供できればと話されていた。

また同神社は山の中腹にある立地から、雨天時は裏山の水が境内に大量に集まり、土が雨

水と一緒に山下に流れ出て困っていたが、今回の新築工事を機に土壌改良と排水路設置工事も行い、この問題も解決することができた。

立位での作業が可能な受付机

社務所新築後は、参



自身も構想通りの建物ができたと満足しているという。

内田宮司の今後の展望として、稲荷神社が多くの方の憩いの場であればということと、少子高齢化が進む高梁に何かしらの地域貢献ができる神社でありたいと語っていた。

様々な工夫により多機能で使い勝手がよくなった新社務所

96名の神職が受講！ 【神職教養研修会】

『つきものおとしの呪法』

講師…民俗学者神崎宣武氏

岡山県神社庁
研修所主催

ダネ・天狗など。

県神社庁研修所は2月22日、神社庁講堂で第11回神職教養研修会を開催し、県内神職96名が参加した。

この研修会は神職の資質向上と生涯学習を目的として毎年開催しており、今回は全国で活躍されている民俗学者の神崎宣武先生（井原市美星町黒忠鎮座・宇佐八幡神社宮司）を講師にお招きし、『つきものおとしの呪法』をテーマとした講演を戴いた。主な内容は次の通りである。

(1) 憑きものの種類

- ・狐…全国的に伝承が多い。クダ・イツナ・オサキなども同類。
- ・蛇…事例は少ないが、中国山地では荒神憑きともいった。
- ・狸…国内での伝承例が多い。
- ・犬神…狐と同一視するところもある。
- ・その他…トウビヨウ・ゲドウ・ゴイボ



講演する神崎宣武氏と熱心に耳を傾ける受講生

(2) 憑依の対象

- ・個人…挙動が怪しくなり奇声を発するのが一般的だが、実態は千差万別。
- ・家筋…もともとは呪術者だったところに憑きものが棲みついた例があるが、由来はほとんど不明。

(3) 憑きものおとしの行者

- ・修験（里山伏）…真言加持が多く、「三源」「三密」などの呪法を用いた。
- ・巫女…東北地方での口寄せ巫女が知られる。カミツケ（神懸り）によって口寄せを行う。

る拝み屋といわれる呪術者。

(4) 修験行者の呪法例（昭和60年頃長野県御嶽山北麓の調査から）

- ・道場へ相手（母親が伴う）を招き入れる。
- ・祓い（三源三妙）ののち真言を唱える。
- ・1度の行が2〜5時間。これを道場に籠って何日も行う。その間の食事は原則として水と粥だけ。
- ・行者への信頼が高まるにつれて、憑きものが抜けていくのではない。
- ・三源（神道では、三玄）は、「天源天妙天災消除神変加持」「地源地妙地災消除神道加持」「人源人妙人災消除人力加持」

(5) 今は昔の話として

・尋常小学校の修身書…狐狸などの人をたぶらかし、また人に憑くということの無きよう。他に8項の注意書きがある。

- ・明治祭式…式部寮達に向けて神職への芸事と呪術の禁止が説かれた。
- ・憑きものおとしの再現は難しい。修験道からの検証は可能だろう。

・神主…吉田（占部）兼俱（1435）が創唱した「唯一宗源神道」の隠幽（おんゆう）の教え（密教に相当）を引く。重要な教典（三玄三妙）は、『天玄神変神妙経』『地元神通神妙経』『人元神力神妙経』。しかし、その根拠は薄い。湯祓いも行った。

・その他…いわゆる

参加者からは「神職の教養として知っておくべき内容だった。」「同じ内容で今度は氏子崇敬者向けの講演会をお願いしたい。」との感想が寄せられていた。

（岡山県神社庁 岡本好範）

【時局研修会】
『領土領海問題』
 について
 講師・物部明德氏

岡山県神社庁
 御津支部主催

岡山県神社庁
 御津支部主催

3月17日、御津郷土歴史資料館（岡山市北区御津金川）さつきホールに於いて、真庭市から倉敷市まで県下の神職14名を含む約60名の総代・氏子の皆様のご参加をいただき、時局研修会が開催されました。



全国的にもご活躍の物部明德氏

講師にお迎えした物部明德氏は地元御津で生まれ、防衛大学卒業の後、昭和53年から平成23年までの長きにわたり自衛隊員として勤務され、特に平成19年から21年の2年間は第1高射群（地

対空ミサイル部隊）指令として活躍されました。現在は備前国一宮石上布都魂神社の宮司としてお宮を守りながら、全国で講演活動をしておられます。



物部氏の多岐にわたる講話に聞き入る参加者

まず開講式に続き、前半はパワーポイントを駆使しながら、領土領海問題、自衛隊の装備・活動など多岐にわたってお話をいただき、後半では国防に留まらず、防災士としての観点からも自然災害などに対する心構えについてお話しいただきました。その際、神社総代氏子の組織は最大の防災組織であると強調し、岡山県は災害が少ない県として全国から注目されており今後発展する可能性が高い、御津支部こそ岡山の中核として頑張つて欲しいと力説されました。

休憩時間には、会場ホールでお茶をいただきながら参加者相互の親睦を深めました。物部氏はその間も常に人に囲まれ、時局問題に対する参加者の興味関心の高さが伺われました。

閉講式の後には、神道政治連盟から参議院選挙に向けて理解と協力をお願いがあり、神職に半日研修の修了証を渡し帰路に就きました。

本研修会は新支部となつて最初の試みでしたが、好評のうちに終了し安堵しております。

この場をお借りして、開催にあたりご協力いただいた皆様、並びにご参加いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

（御津支部支部長 上月良典）

和やかに開催
支部長懇話会

5月16日・17日、平成27年度支部長懇話会が開催された。

この懇話会は各支部長相互の情報交換と親睦を図ることを目的としており、開催担当を各支部の持ち回りで年1回行われている。今回の当番支部は川上支部で、初日の16日は高梁国際ホテルを会場にして協議を行い、翌17日は大元八幡神社（高梁市成羽町成羽鎮座）を正式参拝の後、同神社拝殿にて荒神神楽を鑑賞した。

懇話会では開会行事の後、当番支部長である山本光徳支部長が挨拶を行い、続いて牧村長が日頃の協力と尽力に対する感謝を述べた。

続いて4点の議題についての協議に入り、以下のような現状報告・意見交換が行われた。

（1）**支部再編後の問題点**

・合併した支部間での連携が難しく、現実、旧支部はそれぞれ分会として運営しているのが実情。

・連携を図るために、新支部体制で研修会を企画開催するなどしている。

- ・神社負担金や大麻宣揚費、また遷宮負担金などの扱いが支部で違っていたため合併後は扱いに苦慮している。
- ・合併のメリットは少なく支部員の不満が噴出。支部長の精神的・実務的負担が増えた。
- ・役員候補の人材発掘も、困難な現状は変わらなかつた。
- ・現在、合併3年目であるがやっとまとまってきた。

(2) 若い神職に対する教化活動

- ・若い世代は兼職が多いので、支部での研修会は土・日曜日に開催して参加しやすくしている。
- ・皇室・神宮大麻・神政連にたいする理解が足りない方に対しては、望ましい方向へ導くのが先輩神職の務めである。
- ・神職はハードな仕事であるが、魅力を見出しにくい面もある。子世代に後継の強要はしにくい。

(3) 支部内の協力体制

- ・後継者問題は深刻。
- ・神職数が足りていない実態がある。近隣支部をはじめ神社庁も神職の派遣を視野に入れて欲しい。
- ・8月開催予定の県主催の直階検定講習会は是非とも開催して欲しい。

(4) 高齢化社会への対応

- ・自治体を始め、皆が頭を悩ませている問題であるが、厳しい現状がある。

- ・神社も生き残りをかけて取り組んでいく必要がある。
- ・祭典開始時間を変更するなど、参拝者を増やす工夫をしている。
- ・定例祭典の見直しを行なっている。
- ・世代交代のため神社や祭礼に関する理解度が低くなってきているので、総代を対象にした研修会に力を入れている。



熱心に協議を行う各支部長

など終始熱心な協議が行われた。

また翌日鑑賞した荒神神楽演目であるが、同神社氏が代表を務める神楽社中、『備中成羽社』の若手太夫達が「吉備津」という勇壮な演目を披露し、その小気味よい太鼓と迫力ある演舞に、参加者たちは暫しの間現実を忘れ、神代の時代に引き込まれていたようだった。

(広報部会 渡辺真理子)

岡山市内の小学校で神道教化事業
「雅楽鑑賞会」開催

教化委員会
事業部会主催

平成26年度から行われております本事業は、祭祀委員会雅楽部会の皆様に学校に向いていただき、日本の伝統文化である雅楽を子供達に実際に体験してもらおうという神道教化事業です。昨年に引き続き、本年も左記の岡山市内公立小学校3校に於きまして、音楽の授業の一環として『雅楽鑑賞会』を開催致しました。

2月8日

○七区小学校 (岡山市南区北七区)

【対 象】 小学6年生 23名

【開催時間】 9時40分～10時25分

○御野小学校 (岡山市北区中井町)

【対 象】 小学6年生 約120名

【開催時間】 13時45分～14時30分

2月17日

○操南小学校 (岡山市中区藤崎)

【対 象】 小学6年生 90名

【開催時間】 11時45分～12時30分

授業内容につきましては、全て雅楽部会にお任せしておりますが、この度は、「平調 越殿楽」などの楽曲に加え、「豊栄舞」の曲も演奏していただきます。

た。現在の小学校音楽の教科書に「越殿楽」が「今様(いまよう)越殿楽のメロディーに歌詞をつけたもの。」として掲載されている事から、その今様の一つである「豊栄舞」の曲も演奏することで、子供たちに「雅楽」と「今様」の違いを聴き比べてもらう試みでした。



小学生の前で演奏する雅楽部会員

それから雅楽器の紹介と共に、子供たちに演奏体験してもらいましたが、教室は大いに盛り上がりつつありました。このように雅楽を通して神社の神職さんと触れ合う事は、小学生たちにとって貴重な体験になったと思われまます。

またこの度は、七区小学校・操南小

学校での雅楽鑑賞会の模様が、『神さまの出前授業』として広くお茶の間にテレビ放映され、より多くの皆様に我々の活動を知って頂く事ができました。

我々神社界は、引き続き日本の伝統文化を率先して発信して行かなければなりません。次年度以降予定している新事業《神社界以外の機関との共同事業》を展開していく上でも、本事業が最良の礎になったと考えております。



演奏体験のテレビ取材

また県神社庁に於きましても、本事業が他の部会との垣根を越えて行われる事業となり、部会相互のスムーズな連携を図るために、何度も協議し修正を繰り返しましたが、同時に新しい活動形態の基礎となるものも構築できたのではないかと考えております。

この場をお借りし、改めて雅楽部会の皆様方のご理解・ご協力で深く感謝申し上げます、これからこの『雅楽鑑賞会』がより良い形で継承されることを願っております。

(教化委員会事業部長 根石俊明)

初任神職研修 受講体験記！

藤田神社 禰宜 今井千晶

岡山県神社庁主催による第28回初任神職研修が、6月6日・7日及び同月21日・22日の2泊4日の日程で神社庁において開催され、県内から8名(男性4名・女性4名)が受講しました。指定科目は10科目、計12名の講師の先生方により講義・実技のご指導を頂いた。

初日は開講式に引き続き、牧庁長による『神職奉務心得』を受講しました。暦の必要性と歴史、またその種類と違いについての講義でした。暦は、地鎮祭の日程決め等で見ますが、もう一歩深く暦を学んでいくべきだと感じさせていただきました。

昼食後は佐伯講師による『敬神生活の綱領』を受講。童謡の『見てごさる』の書きの歌詞が配られ、「この歌の『見てごさる』の主語に、『神様が』『氏子さんが』を当てはめて詠んでほしい」とのお話でした。その温かみのある佐伯講師の文字を通して—— 神様から信頼を受けた神主でない神主にはな

れない。『吾が大神』と言えるような神主に成ってほしい。お蔭を自分がもらい、人々にもお蔭が届くように拜む。佐伯講師の初任神職への想いが胸に響きました。

続いて佐々木講師による『敬神生活の綱領』では、綱領のできた経緯・信仰についての講義を受け、「祖先は肅々とお祭りを執り行ってきた。そして氏子さんはその背中しか見ていない」とのお言葉を頂き、まさに背中でお示しするのか?…その意識を忘れてはならないと改めて思いました。

次に伏見講師の『神社本庁史』では、2日目と合わせて計4時間の講義で、本庁設立に至るまでの先人達の苦勞と本庁存在の重要性を認識することとなりました。明治憲法下と終戦後では政教分離の解釈が全く異なり、戦後体制の数々の問題点と本庁の活動を改めて知ることができた講義でした。

夕方には、直階講習会では経験のなかった国旗降納を行いました。『君が代』の音量が皆全体的に小さいと指導を受けてしまいました。夕拝でも坐礼での所作にうっかりミスが出てしまい反省しつつも、何とか無事に終えられ、夕飯後には参加者同士で自己紹介を行う交流の時間があり、其々の素敵な一面を知って初日が終了しました。

2日目は早朝から雨。岡山県護国神社境内の青葉が深く光る中を正式参拝。ご奉仕いただいた神職さまの流麗で美しい作法に釘付けになりました。

続いて小見山講師の『短歌』の講義では、其々に作った短歌を先生が添削披露してくださいましたが、その短歌と水無月の借景が情緒深い時間を織りなしました。

昼食を挟んで『神社祭式同行作法』を戸部講師・河野講師から3時間に渡りご指導を戴きました。敬礼作法をはじめ各種基本作法についての再確認を行い、大祭式における各所役の作法、動くタイミングなどについて復習を行いました。神明奉仕で大事なものは、規定に沿った綺麗な作法であることだにご教示いただき、非常に有意義な研鑽となりました。

3日目は瀧本講師による『神社実務』を計5時間受講。本庁設立に至る概略の説明と執務に直結した組織説明でした。

続いて『神宮史概説』は岡崎講師の講義で、それは直階講習より深く神宮史を紐解くもので神宮参拝への旅を思わせるような印象的な講義に引き込まれる思いがしました。この日は夕飯後も夜8時半まで講義があり、多くの学びの時間を過ごせたという昂揚感の中

で一日を終えることができました。



岡崎講師と受講する初任神職

間と心得』のパンフレット等も頂き、これらは早速活用して役立てたい資料となりました。

最後は牧庁長の『神社庁史』でした。岡山県神社庁史の年表資料は流れがとてもしっかり易くまとめてあり、こちらでも大切にしたい年表資料となりました。

そして全ての講義を終えて、閉講式を迎えました。牧庁長から「本研修は第1段階に過ぎない。以後様々な研修を積極的に受講し研鑽に励んでほしい」との訓示を頂戴いたしました。確かにこれは「終わり」ではなく「始まり」なのだ、はたと気付きました。

4日目、最後となる朝拝では滑らかな報鼓を行うことができ、そして皆の声が響く一体感ある『君が代』に合格を頂き、一日がスタートしました。

西辻講師による『神社本庁憲章』では憲章のより深い解説で、本庁憲章が神社本庁の最高法規であることなどを、教科書とは別の史料・資料を用いて再確認しました。

『神道いろは』の長江講師には、手作りの5行の早見表に『忌中と喪中の期

最後にこの場をお借りして、今回お世話になりました講師の先生方、また神社庁の職員の皆様、心から感謝と敬意を表させていただきます。ありがとうございました。

本庁設立70周年
『記念大会』
興除神社 宮司 西辻嘉昭

本年は神社本庁設立70周年にあたり、河本貞紀前庁長、牧博嗣現庁長、中島博総代会会長を始め86名が栄えある規程表彰並びに記念表彰を受賞した。

去る5月25日、明治神宮会館において記念大会が挙行され、全国から約1500名(岡山県からは被表彰者28名並びに随行者6名、計34名)が参集した。今回は周年記念として特別企画の団体旅行が事前に案内されており、応募した19名は、当日午前7時10分岡山空港を発して羽田に降り立った後、地上202メートルの東京都庁展望室から東京の町並みを眺望しつつ記念大会会場に到着した。

記念大会の第1部として、午後1時から明治以降物故神職総代慰霊祭が齎行された。明治期の国家神道確立から終戦直後の未曾有の混乱等の歴史的な変遷、並びに本庁設立から70年の歳月に思いを馳せ、斯界の存続に尽力された数多の先人達の御霊安らかならん事をお祈りした。社会状況の移ろいと

もに人々の意識や暮らしぶりの著しい変化に直面する現在、祭りの振興を通じて地域の発展を図りつつ、我が国固有の伝統文化を護持継承してゆくための新たな局面を迎えている事を、改めて認識させられた厳粛な慰霊祭であった。



明治以降物故神職総代慰霊祭

途中休憩を挟み、午後2時から秋篠宮殿下同妃殿下ご台臨の下、第2部の記念式典が開催された。功績表彰の段では、審査報告が成された後、被表彰者筆頭として高城治延元神宮少宮司に神社本庁長老の称号と鳩杖が贈呈された。秋篠宮殿下から格別のねぎらいのお言葉を賜り、一同感激を受けるとともに斯界の発展に寄与すべく決意を新たに、聖寿萬歳を高らかに唱え、午後3時頃、式典は無事終了した。午後4時頃からは都内ホテルにて神

社庁主催の県内祝賀会が開催され、和やかな雰囲気の下、大いに懇親が深まり表彰の感激を一段と高めた。

翌日は、午前9時頃から衆議院を見学した。この日は遠足、修学旅行などの小中高生徒らで殊の外混雑した。テレビでお馴染みの2階本会議場を3階通路入り口から俯瞰するのみに、残念ながら議席まではつぶさに見学出来なかったが、国政を決定付ける威容を感じ取れた。陛下のご休憩所と皇族室の調度の差も興味深く拝見しながら、階段の昇降を含め約1時間をかけて国会議事堂を歩き回り、否応なくその広さまでも体感した。

次いで、皇居外苑にて休憩・散策を経た後、午前11時頃から中央区日本橋蛸殻町鎮座の水天宮を正式参拝した。有馬頼中央宮司自ら斎主を奉仕された上、氏子の存在しない崇敬神社である由緒等も親しく説明して頂いた。社殿も境内も全て真新しいので整備直後ではないかと思っていたら、3年の歳月をかけて一新し、今年4月8日から参拝者の受け入れを開始したばかりとの事である。今回の整備事業では、地下に免震装置を数10基据え、鉄筋コンクリート製箱形の基礎構造物を構築（即ち境内区画全体を嵩上げ）し、その1階を参拝者駐車場、更に2階（屋上）に本

殿拝殿社務所参集殿などの全神社設備を構築された旨をうかがった。恐らく50億円は下らぬであろう総工費（具体的な金額は示されなかったが）については、参拝者崇敬者等から一切寄付を受けず、神社会計から全額支弁したとの事で、「安産の神」「情けありまの水天宮」と称えられる広範かつ重厚な信仰母体に感嘆すること頻りであった。

最後に昼食を築地市場界隈の寿司店で取り、買い物等を楽しんだ後、羽田から帰途に付いた。

丁度、伊勢・志摩サミットの関係で空港始め東京都庁や衆議院の警戒が厳しく、普段の数倍の手間をかけて手荷物検査が行われたため、当該施設入場までの待ち時間も相当あったが、都内では懸念された雨天とならず、薄曇り時折晴れの穏やかな天気にも恵まれ、印象深い2日間となった。



神道政治連盟が応援する山谷えり子氏の寄稿文をご紹介します。

『父の背中』

今年の11月28日、亡き父 山谷親平の33回忌を迎える。

7月に改選期を迎えるため、例年以

上に全国を休みなく飛びまわっているが、今でも「お父さんのラジオを毎朝聴いていた」、「親平さんの『絶望は愚か者の結論なり』の言葉で、人生をやり直すことができた」など、たくさんのお声をかけていただく。

中には、加藤隼戦隊で父と共に戦った方との出会いや、家族も保存していなかったラジオのテープをダビングしたものをお送りくださる方もいる。ふと思い出しては、テープを聴いてみる。34年間いつも傍にあった父の声。みるみるうちに、私もただの子供となる。

父の放送で、数回にわたって男の条件について語ったことがあった。「ひっぱたかれても屁とも思わない強靭さ、ピンチを平気で切り抜けていく男。ピンチになっても怖がらない。やせガマン。これが『男の魅力』」

「男の人生」・人生は挑戦した目標に向かつて継続すること。続けばベテランという味になる。自分をコントロールしながら、一つの目標めがけて努力をしてやめない。」

女の魅力、女の人生にも通じるものだと、一人のリスナーとして聴くこともある。

先日、新聞の読者欄を読んでいたら、栃木県の75才の男性が主張欄を読んで故山谷親平さんを思い出したという記

事を目にした。「山谷さんは20年間、ニッポン放送でラジオパーソナリティーを務めた産経新聞政治部記OBですが『朝の番組で日本人をよく叱り、われわれは『そうだ！』と共感したものだ』という内容のものであった。歯に衣きせぬ父の語り口に、当時の私はハラハラすることもあったが、30年以上を超えてなお、父のことを思い出してきている方々がこんなにもいてくれることは父にとつて最高のプレゼントであろう。

小学校低学年の頃、父に連れられレストランに行った時、将来の夢を聞かれ「新聞記者」と答えた私に「いいねえ。えりちゃんそのナイフとフォークの使い方なら、将来新聞記者になつてアメリカの大統領と記者会見したあと、ホワイトハウスにディナーに呼ばれても大丈夫だよ」と言った父。この言葉で「人生って、けっこう面白いみたいだ。人生やりたければ、いろんなことがやれるんだ」と強烈な光と解放感に包まれた。私にとつて転機となる一言でもあった。

3児の母となり、編集長となり、国会議員となり、大臣という重責にもかかわらずもたらしたが、62才で逝った父の年齢を超えても、未だ父の背中をこえることはできない。

神職任免

就任発令の部 ※本務のみ掲載

Table with 5 columns: 年月日, 鎮座地, 神社名, 本務職, 氏名. Contains 28 rows of appointment data.

退任発令の部 ※本務のみ掲載

Table with 5 columns: 年月日, 鎮座地, 神社名, 本務職, 氏名. Contains 10 rows of retirement data.

神職帰幽

Table with 5 columns: 年月日, 鎮座地, 神社名, 職名, 氏名, 現身分, 享年. Contains 3 rows of return data.

神社庁辞令

四月一日

岡山県神社庁顧問を委嘱する 河本 貞紀

閉庁のお知らせ

平成 28 年 12 月 29 日

）

平成 29 年 1 月 4 日

庁務日誌抄

自 平成 27 年 12 月 1 日
至 平成 28 年 6 月 30 日

4 月	
1 日	月次祭
3 日	春の旅 (第 1 日)
4 日	祭祀舞部会 / 春の旅 (第 2 日)
5 日	春の旅 (第 3 日)
6 日	神青協監査会 / 神青協役員会
11 日	神楽部監査会 / 神楽部役員会
12 日	神社関係者大会物故者慰霊祭習礼 / 総代会臨時役員会
13 日	敬神婦人連合会総会 (津山方面) / 神青協総会
14 日	正副庁長会 / 役員会 / 関係者大会企画委員会 / 神宮崇敬会監査会 / 神宮崇敬会理事会評議員会
20 日	第 54 回岡山県神社関係者大会
25 日	財務委員会 / 教化委員会ヒアリング / 祭祀委員会ヒアリング / 神青協発送作業
28 日	女子神職会総会 / 女子神職会自主研修

5 月	
2 日	月次祭
6 日	正副庁長会
10 日	神青協打合 / 神政連役員会
12 日	中国地区社頭講話研修会 (第 1 日目) / 神宮奉賛部会
13 日	中国地区社頭講話研修会 (第 2 日)
16 日	支部長懇話会 (川上支部) / 祭祀舞部会
17 日	支部長懇話会 (川上支部)
18 日	女子神職会作業
22 日	神楽部総会
23 日	特殊神事部会 / 神青協役員会
24 日	広報部会 / 育成部会
25 日	本庁設立 70 周年大会 / 神社庁閉庁
26 日	中国地区職員研修 (東京) / 神社庁閉庁
27 日	中国地区職員研修 (東京) / 神社庁閉庁
30 日	祭儀部会
31 日	雅楽部会

6 月	
1 日	月次祭
2 日	女子神職会作業
3 日	役員会 / 身分選考表彰委員会
6 日	初任神職研修 (第 1 日)
7 日	初任神職研修 (第 2 日)
8 日	中国地区女子神職研修会 (吉備中央町)
16 日	祭儀部会
17 日	育成部会発送作業
20 日	岡山県神職保護司会設立総会
21 日	初任神職研修 (第 3 日)
22 日	初任神職研修 (第 4 日)
24 日	雅楽部会
27 日	祭祀舞部会 / 特殊神事部会
28 日	協議委員会

12 月	
1 日	月次祭
2 日	祭祀舞部会 / 祭儀部会 / 祭祀常任委員会
4 日	神社関係者大会企画委員会 / 財務委員会
8 日	事業部会
10 日	女子神職会清掃奉仕 / 女子神職会役員会
15 日	神政連役員会
16 日	同宗連発送作業
24 日	庁報発送作業
25 日	神青協発送作業

1 月	
5 日	年始祭
19 日	事業部会
26 日	雅楽部会
28 日	祭祀舞部会 / 身分選考委員会 / 役員会

2 月	
1 日	月次祭
5 日	祭儀部会
9 日	神青協役員会
15 日	研修企画室会議
16 日	岡山八幡会役員会
17 日	事業部会
19 日	神政連役員会
22 日	女子神職会打合せ / 神職教養研修会
23 日	敬神婦人会監査会 / 敬婦役員会 / 祭祀舞部会
26 日	選挙対策委員会

3 月	
1 日	月次祭
2 日	広報部会
3 日	祭儀部会 / 祭祀舞部会 / 雅楽部会 / 神殿祭習礼
4 日	女子神職会監査会
7 日	育成部会
8 日	祭祀舞部会 / 神宮奉賛部会
9 日	神青協発送作業 / 神青協事業部会
10 日	神青協予備監査
11 日	神殿祭 / 臨時協議委員会
16 日	初任神職研修会講師会議 / 神政連副本部長及び新正副庁長との打合
23 日	特殊神事部会
25 日	神政連打合せ / 神政連代議員会
28 日	身分選考表彰委員会
29 日	神青協監査会
30 日	教化委員会役員会

